

第1回第3期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

会議録

1 日 時 令和6年10月25日（金）午後1時30分～3時00分

2 場 所 上山市役所 大会議室

3 出欠席委員等

(1) 出席委員

五十嵐 伸一郎、猪狩 良佳、枝吉 亮典、菅野 高志（代理：商工会副会長加藤 洋三）、菅野 光昭、木村 佳代子、後藤 博、齋野 太吾、下平 裕之
鈴木 潤、土屋 貴子

(2) 欠席委員

尾形 智代、小川 修平

(3) 上山市出席者

山本 幸靖 市 長（辞令交付まで）

鈴木 英夫 副市長

関係課（局）長 12名（農林夢づくり課長代理佐野係長、学校教育課長代理高橋係長）

(4) 事務局 市政戦略課 市政戦略係

富士課長、水田副主幹兼係長、渡辺主査、荒井主事

4 市長挨拶

この度「第3期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」委員をお引き受けいただき、心より感謝申し上げます。皆様ご存じのとおり、本年4月より第8次振興計画がスタートし、当振興計画の中で掲げている将来都市像は「つながりつなげるいろどりのまち かみのやま」である。この将来都市像の実現にむけ、市民、地域、事業者、行政が互いにつながり「チーム かみのやま」で、まちの魅力を高め、持続可能な発展につなげていきたい。振興計画の中で定めた人口目標をしっかりと達成していくために、この、まち・ひと・しごと創生総合戦略に人の流れ、魅力的な働く場所や地域をつくるとともに、安心して子どもを産み育てられる環境をつくるための目標や施策を盛り込んでいきたい。計画策定にあたっては、当推進会議、アンケート、パブリックコメントにより積極的に市民等の参加を促し、アイデアや提言を可能な限りに吸収したい。委員の皆様には、お持ちの専門性、視点から具体的な施策の形成に向けた意見や提案をお願いしたい。

5 座長選出

事務局 座長の選出については、第3期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議設置要綱第4条第1項の規定により、座長は委員の互選によって選出されているため、委員の皆様のご意見・ご推薦をお願いしたい。

枝吉委員 事務局の案はありませんでしょうか。

事務局 事務局案では、この度の座長を下平裕之委員をお願いしたい。

～各委員より特に異議等無し～

事務局 ご異議無しのため、本会議の座長は下平裕之にお願いする。

6 座長挨拶

この度議論頂くまち・ひと・しごと創生総合戦略は、先日策定された第8次振興計画と両輪をなして、地域づくりを展開していけるような計画づくりを目指していきたい。ぜひ、市民の皆様の意見、ひいては市民の代表である皆様の意見をふまえながら計画策定を進めていきたい。

7 説明

(1) 第3期上山市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

資料1～資料3に基づき富士課長より説明。

【質疑応答等】

特に無し。

8 協議

(1) 基本目標（案）について

資料5に基づき富士課長より説明。

【協議結果】

今後、目標を達成に寄与する具体的な施策が検討されることを期待し、基本目標（案）のとおりとする。

【質疑応答等】

下平座長 事務局より、上山市の人口、雇用の状況及び各種意識調査に関する説明、他市との比較等ふまえ、このような基本目標を定めるとの説明があった。この基本目標（案）について、委員の皆様より質問・意見をいた

だきたいと思う。名簿順で五十嵐委員よりお願いしたい。

五十嵐委員 今時点における、上山市の人口及び内外国人の人数を教えてください。

⇒事務局 今時点の人口は 27,800 人程度であり、内外国人の登録数が 250 人程度である。

猪狩委員 漠然とした基本目標・方針だが、今から具体的な方針が出てくるかと思うが、非正規雇用者の割合が高いとの事だが、企業にとっては中々難しいことだと思うが、高校卒業後等の就職は正規雇用だと思う。その中でも、上山市内では働きたくないという意見があると思われる。市内企業は男女問わず正規雇用で雇ってもらえる企業が増えれば良い。また、天童市、南陽市消滅可能性自治体から脱却したとの事だが、具体的にどのような取組をして人口が増えたのかという、他市への具体的な取組の確認は行ったか。

⇒事務局 消滅可能性自治体からの脱却は、端的に言うと若い女性の数が増えている事が判断の材料になると考えている。天童市から直接聞き取りは行っていないが、施策に内容から推察すると、大きい要因としては、大きな人口の受け皿づくりとなった、イオンモール天童周辺にある芳賀ニュータウンの開発である。南陽市については、近隣周辺の町からの転入者の受け皿になっていると推察する。勤務先や積雪量、交通の便などそのような点からこのような結果が出てきていると思われる。

一方、本市の隣接市は山形市であり、町も隣接していないため、市民の方が生活圏を山形市と比較しやすい環境にあり、山形市への転出先が一番多く、山形市との比較で本市からの転出が多いのではと分析している。

枝吉委員 基本目標（案）の『働く場所を創造する』という点において、働き方改革を色んな形で上山市に提案させていただければと思う。具体的には、我々は NTT グループの日本情報通信という会社であり、地元にいながら首都圏の仕事ができる取組を進めている。それが可能になると、人口流出防止や地元への U ターンが促進されるようになる。そのようなことが実現できる環境を少しずつ進めている。

上山市内の企業とも連携し、仕事を創り出すということを我々も一緒になって提案させていただきたいと考えているため、この基本目標に少しでも合うような、施策を一緒に考えていければよいと考えている。

加藤副会長 子育て環境に対する意識調査結果について、『子育て環境に対する否定

的な回答高く改善が期待される』とあり、否定的な回答とは何かと考え、事前に参考資料3を確認し、その中の55Pに、『産婦人科がない、小児科が少ない、子育てに関する公的援助が少ない』などの厳しい意見がある。この点について、今後市として具体的な取組、対策はあるか。また、公的援助が少ないというのは、他市町村と比較して少ないということか。

⇒事務局 市長と若い方との意見交換会が何度か開催されているが、その中でも、産婦人科や小児科の話題は必ずでくと認識している。全国的にも、産婦人科・小児科は減少しているため、本市においてもどういった取組ができるのか検討が必要。また、『公的援助が少ない』という点については、アンケート対象者の方の意見としては『少ない』とでているが、周辺自治体と比較しても本市が劣っているわけではない。保育料の減免や18歳までの子どもに対する医療費無償化など、率先して取り組んできた。医療費無償化においては、現在県内でも横並びとなっている。子育て世代の方が、求めている情報を的確に発信出来ていない可能性もあるため、情報発信の方法を検討するとともに、給食費無償化など基本的に必要な支援策は国に提言を行っていき、本市で求められている子育て支援策の分析が必要と考えている。

⇒副市長 加藤副会長より発言があった件だが、前回のアンケート結果であり、今回の新しいアンケート結果は資料4-1の26Pにある。結果は、基本的に前回と同じ傾向である。事務局から給食費無償化の点について申し上げたが、27Pに、『給食費負担が大きい、給食費が完全無償化ではない』とあり、他自治体でも給食費の公費負担という支援が増えてきているが、現時点で、山本市長にその考えはない。その分を、グローバル化に対応した英語教育の充実や来年4月開校の学びの多様な学校など、教育環境の充実の方に、費用を向けていくという、市長の方針もあるため、その点もご認識いただきたい。小児科等の課題については、引き続き検討していく。

菅野(光)委員 今回の基本目標(案)を第2期の基本目標と比べると、『交流と繋がり』において、数値目標を宿泊客数や社会増減に着目している点は良いと考える。村山総合支庁連携支援室では、村山地域の社会増減を調べており、上山市の場合は県外との流出・流入は比較的多くなく、年次によってはプラスの時もある。一方で、県内も含めた全体の社会増減がマイナスであるということは、事務局からも説明があったように、山形市に隣接しており、山形市へ転出する人が多いということだと思われるため、その点に着目して施策を取り組んでいくのは、理にかなっている。

質問となるが、資料5の19Pにおいて、上山市の第2次産業の割合が低くなっているが、どのように分析しているか。

⇒事務局 本市の第2次産業割合が低いのは前から傾向があるが、国勢調査結果によると、本市在住の約4割が市外に働きに出ており、市内の企業構成によるところとは言い切れない。1点は、温泉地であるため旅館業への働き口が多いことも要因の一つと考えている。また、以前より製造業に就く人が少ないという傾向があったため、本市では製造業を中心に企業誘致を進め、比較的大きな企業も誘致できたが、就業構造割合に変化がないため、追跡調査として、誘致企業を対象に、市民の雇用形態の調査を考えている。

本市が考えていた成果と施策の内容がマッチしているのかどうか、今後深掘りをしていく必要がある。

木村委員 学びの多様化学校や英語教育に力を入れ始めており、教育面では楽しみな部分がある。一方、今年から自分の息子も県外の学校に進学をし、今後就職をする際、上山市に魅力的な働く場所があるのかというのが気になるポイントになるため、先ほど枝吉委員から話があった、リモートを取り入れた働き方など、就業環境も変化していくと良いと考えている。

また、資料5の42Pに『自然災害』と記載があるが、第8次振興計画の中で自然災害という言葉があったと思うが、上山市は自然災害が少ない場所であるため、その点もアピールしていければ良いと考える。

後藤委員 アンケート結果や分析は隅々までしていただいている。質問が2点あり、1点は、資料5の44Pの基本目標（案）において、第2期においても1～4と同じ順番で記載しているが、通常、一番重要な点から順番を付けると思うが、優先順位はあるのか。2点目は、上山市以外の市町村が上山市をどう見ているのかを教えてください。

⇒事務局 順番付けだが、国で示している方針の順番に合わせているため、優先順位があるわけではなく、並列と捉えていただきたい。

外の方がどう本市を見ているかという点について、総じて外から来られた方々の意見としては、「自然・食べ物が豊富で魅力のある地域だ」とよく言っていただく。一方、市民の目からすると、自然はあって当たり前で自慢できるものではない、という考えを持っている方が多いので、今回の振興計画においても、改めて上山市の魅力とは何であるのか、というのを市民の方からも考えていただき、いわゆる「シビックプライド」を養っていきながら、地元の良さを認識し外にしっかり発信できるようにしていく。

齋野委員 調査結果やグラフを見ると、改めて危機感を感じる。製造業を営んでいるが、市内の顧客が1社ほどしかなく、県外の顧客がほとんど。市内で仕事を回し合える繋がりがあるところはあると思うが、そういった印象が無

いため、その繋がりを強化していくと良いのではないかと考える。

鈴木委員 基本目標（案）については、他の委員からも発言があったが、こういった表現にとどめる状況であり、今後具体的な考えがでてくることを期待したい。高校卒業後にどれだけ戻ってきてもらえるかが重要だと説明があったが、自分は高校卒業後では遅いと考えており、中学校卒業後と考えた方が良いと考える。なぜなら、取材で明新館高校の生徒と仕事をする機会があったが、その際に生徒が『自分達の学校に上山市出身の人がほとんどいない。１～２割しかいない。』その他は山形市や他自治体から通学している。つまりそれだけの子どもが市外にでていくことになる。勿論、進学やスポーツのため等であるのは理解するが、一度上山から出てしまった人が高校、大学卒業後考えるか、というと既に遅いと考える。そういった意味では、小中学校の頃からシビックプライドを育むのは重要である。その点について、どのように考えているか伺いたい。

⇒事務局 委員の仰るとおり、明新館高等学校の生徒の約２割しか上山市在住者がいない。この点については、進学やスポーツのために市外高校に進学している方も多いと思うので、一概に明新館高校への進学が少ない、という理由だけでは言い難い部分もあるため、戻ってきってもらうために小さい頃から郷土愛を育むための教育や子どもの意識形成に係る保護者の方の上山市に対する印象の向上など、シビックプライド育成・向上に向けた取組が重要。

⇒副市長 鈴木委員からは、毎日上山市に関する記事を書いている。子どもたちが、その記事を見て、触れることで郷土愛を育んでいくことが大事である。また、中学生の段階で上山市内の企業を紹介するなど、早い段階での取組を必要であると思うため、取り組んでいきたい。

鈴木委員 小中高校生が、上山市と一緒に地域課題を解決する、地域の事を勉強するというような場面の取材機会があるが、正直言うと小学生が一番レベル高い。中学生もしっかりしている。大変失礼ながら高校生が、一番レベルが低い。その理由は、市外から通学している生徒が多いというのもあると思うが、もし可能であれば、上山市が明新館高校と一緒に何か取り組むという際には、高校生に対しても大人として正しい指導をしていただきたい。子どもたちの教育にも繋がると考えているので、ぜひ検討いただきたい。

土屋委員 基本方針をみていると、一つ一つの目標ではなく全てが繋がっていると感じる。魅力的な働く場所があり、地域となれば人の流れも出てくるし、安心感が生まれれば子どもを産み育てられる状況が出来てくると思う。今

後、会議の中で数値目標が具体的に出てくると思うが、上山市の『魅力らしさ』とはどのように考えているか。

⇒事務局 一般的な若い方が考える魅力は、都市部にあるような店やゲームセンター、カラオケなどと考えていると思うが、そのような街づくりではなく、個性的な特徴をもつやりपीト性のある店などを増やしていくことが、本市にとって必要であると考えている。どこの都市にもあるようなものを増やすのではなく、他とは違う魅力を創り出すのが上山市の生き残りに繋がると考えている。

土屋委員 上山市の魅力は色々あると思う。自分自身、住んでいるので実感しているが、それを活かすきっかけをもっと発信していければ良い。それを市だけに求めるのではなくて、民間や市民で考えることも必要。**資料5**、44Pの『安心して子ども産み育てられる』という点において、仕事柄、協会けんぽと仕事をすることが多いが、子どもの出生率が低いのはそうだが、子どもを産む女性の数が減っている。つまり、同じ女性が複数出産を経験することで、なおさら出生率が下がる。『安心して』というのが金銭面だけではなく、隣近所の関係や育児サポートであったり、その辺が出産に対する足枷になっていると感じるため、その点も含めた施策の検討をお願いしたい。

下平座長 委員の皆さん、様々なご意見等ありがとうございました。基本目標だけではまだ漠然としているため、施策等で肉付けされた具体的な案が次の会議で出てくると思われる。計画策定にあたっては、意見等をふまえ、施策・K P I の検討を行っていただきたい。

(2) その他

特に無し。

9 その他

次回以降の推進会議を、以下のとおり予定。

【第2回目】

日 時：令和6年12月25日（水） 午後1時30分～

場 所：市役所2階大会議室

【第3回目】

日 時：令和7年1月31日（金） 午後1時30分～

場 所：市役所401・402会議室

以 上